

KSKP
No. 2



発行 1993年8月

編集 クリエイティブハウス
“パンジー”

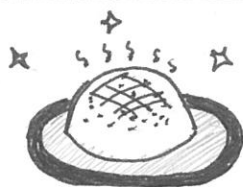
またたく間の4カ月。6月はピープルファーストの世界会議に参加するメンバーの一人であるN君が、カナダへの期待と不安のためか、パニックにおちいってしまいました。「こんな状態でいけるのだろうか」というみんなの心配をよそに悪態のかずかず。夜の介護の時など、今はしんどい時なのだからと理性でわかっているけれども、思わず涙を流したり、ソファを思いきり蹴っていた新しい職員達。長い長い1カ月でした。それでも出発の2～3日前には落ちつきをとり戻し始め、無事出発する事ができました。ほんの2カ月ほどのつきあいで、ここまで支えきった新しい職員達に拍手を送りたいと思います。そして、N君の状態をあるがままに認め、毎晩つきあったグループホームのメンバー達や、日中、手薄になりがちな作業をになってくれたメンバー達に頭のさがる思いです。

こんな波乱万丈の日々をくぐりぬけ、7月3日には7人のガイドヘルパーの人達と、長居の身障センターへいってきました。駅で出会ってお互いに自己紹介をして、それぞれに出発。各々の好みでの遊びや食事。メンバー達の仕事の時とは違うなごやかな顔を見るのは、心ときめくものがありました。後の「おつかれ会」で話された内容のなかで、障害者問題について学ぶ(知的学習)だけでは不十分だということ、体験を通してそれがどういうものであるかを学ぶ事が、より多く障害者について理解する事であり、また自らの成長につながっていくのだということ、強く確信しました。今回のガイドヘルパーとして関わって下さった人達、そしてこれから関わって下さる人達、ガイドヘルプ活動を通してお互いに成長していきたいと思っています。

これからもよろしく!



各部門より紹介



パン...

■■ パン屋の窓からこんにちは ■■ ~メロンパン奮戦記~

焼き上がったパンを車に乗せて、新しいメンバーたちとも配達に行くようになってから、はや2ヶ月。みんなやっぱり外に出て行くのが好きで席の取り合いになることもしばしば。真っ白だった帽子も汚れが目立つようになり、パンやクッキーを作る真剣な姿や配達中の笑顔を見ていると、もうすっかりパン屋さんだなあという気がします。BUT! そんなメンバーたちのはりきりとはうらはらに、我がパンジーのメロンパンは、ふっくらと焼けてオープンから出すと時間とともにペシヤンコになっていく...ああ悲しや、という日々。なんとかお客さんの口にふっくらとおいしいメロンパンをお届けしたいと、パン屋一同日々メロンパンに愛情を傾けて研究しています。どうかこれからもよろしく願いたします!

(にっちゃん)



軽作業...

前回に続きまして、軽作業部門の報告です。6月中旬ぐらいから、以前からやっていた、洗濯ばさみのちょっと変化したものを行っています。これは、やりやすいことや単価がいいなど、何かとメリットのある軽作業です。しかし、喜んでいたのもつかの間で、今の暑いシーズンは、売れ行きが悪いらしく、製品ができて納品はストップをうけているのが、現状です。もうすっかり洗濯ばさみの工程の流れをつかんでるみんなに、「ゆっくり作ってほしい」と無理な注文をし、ローペースでやっています。けれど、だんだん材料がなくなっていくのを見て、心配する人も出てきているので、新しい作業も探しあたっている所です。しかし、この不況の時代に、作業を探すというのは難しいと実感しながらも、次はどんな作業ができるのだろうと期待しています。

(おがわ)



厨房...

パンジーが動き始めてもう3カ月あまり。パンジーのみんなは、毎日毎日変わり続けています。みんなの変化、一人一人それぞれ違って個性的で、毎日楽しませてもらっています。4月の初めの頃には、誰一人として入ってこなかった厨房の中を、今ではいろいろな人が厨房に入ってきては、手伝ってくれたり、なかにはつまみぐいをしたり……。厨房の中も4月にくらべてみれば毎日毎日変化し続けて、日に日ににぎやかになっていきます。こんなにみんなが変化し続けているのに、私の料理技術はまったく成長しません。おかげで、みんなにも河野さんにも迷惑のかけっぱなしなのです。一日も早く、役立つ調理員になるようがんばらないと……

(西尾)

*** 新人研修に参加して ***

クリエイティブハウスパンジーのオープンと同時に就職した私達新人職員5名と旧パンジーの職員2名の計7名は、4月から毎月土曜日の午時2時から5時まで南巽の「ゆうゆう」で月1回の研修を受けています。4月、5月はパンジーの囑託医でもある川端Drによる「てんかんについて」でした。医学用語、専門用語に混ざって飛び出す現実的で身につまされる話に、てんかん症状を有する娘をもつ身として緊張しながらも勉強になりました。3回目の6月は大阪府精更相の職員で、辰野さんの「大阪府精更相の現状と業務の内容」の説明でした。療育手帳のランク判定基準の矛盾点と、判定結果が当事者に必ずしも正確に知らされていないとか、手帳保持者と行政とを結ぶ情報伝達の現状に大きな疑問を感じました。手帳保持者自身が行政のあり方を知り、具体的行動をする事はかなり無理があると思います。保護者のいなくなった障害者が権利を行使しやすいシステム（例えば親身になって考えてくれるケースワーカーとか後見人の様な）が絶対必要だと痛感しました。これからもいろいろなテーマで研修が続けられる事と思います。若い人達に混ざって新しい知識を吸収し、いつもフレッシュな気持ちを持ちたいと思っています。

(河野)

パンジーメンバー紹介

岩田 奈緒 (いわた なお)

こんにちは。岩田奈緒といます。

パンジーへ来てまだ少ししかたってないけれど、だんだんパンジーの建物の中の様子がわかってきました。これからももっと友達を増やしていきたいと思います。よろしくお願ひします。

河野 陽子 (かわの ようこ)

ことし20才になりました。今度のせんきょからとうひょうできます。私はいつもだまって考えるのが好きです。今考えていることは、早くお母さんからはなれてヘルパーさんとくらしたい。おしごともし好きだけど、もっともっといろんなことがしたいです。ときどきおしゃれをするのも好きです。

北川 勝哉 (きたがわ まさや)

こんにちは、北川勝哉です。僕はよく野畑君と一緒に買い物へ行きます。僕はコーヒーが好きです。それと一番の得意なことは、いろいろな外国の歌を鼻歌で歌うことです。これからもよろしくお願ひします。

栗岡 和美 (くりおか かずみ)

私は、このパンジーにきて、ほとんど間がありません。自分自身も、ほんとうに、たまに、今でも、発作をおこして、まわりの人達に、いっぱい迷惑をかけています。一回死にかけてもいるし、本人は、あんまり怖いものしらずのようで、まわりの人を、よく、ひやひやさせていますが、「いつも明るく元気に生きよう」は、大切にしたいと思います。

清水 一男 (しみず かずお)

清水一男です。ぼくたちは いま パンジーではたらいしています。パンのはいたつにいたり マイクロバスにのって みんなをおろしています。バスのうんでんしゅさんとふたりで みんなをおろしてとてもたいへん。グループほ一むでごはんをつくってもらったりしています。つじもとさんは ぼくたちがいなかったらダメなひとです。つじもとさんとぼくたちでやろうね。ぼくたちはこれから、みんなをおろしていきたいとおもっています。ぼくたちでがんばっていきたいとおもっています。

武田 澄男 (たけだ すみお)

4月からパンジーへきています。いつのまにかみんなに「たけやん」とよばれるようになりました。

花よりだんご、いや仕事より・・・かな？厨房からいいにおいがしてくるといってもたってもいられなくなって、思わず厨房へいってしまいます。でも、ちゃんと仕事もしています。

これからもよろしく。

富田 妙子 (とみた たえこ)

パンジーでのパンやきや、せんたくばさみなどががんばります。新しい友達もたくさんできてたのしいです。私の好きな食物は、ギョーザ。嫌いなものは肉です。

長田 民子 (ながた たみこ)

わたくしはパンジーへ来て、にどのよろこびをかんじています。みんなとなかよくしごとができてとてもよかったとおもいます。

西尾 幸女 (にしお ゆきめ)

パンジーの厨房で、「料理のできない調理員」として、働かしていただいています。「料理のできない調理員」ということで、パンジーのみんなに、毎日毎日、とっても迷惑をかけているのですが、パンジーのみんなは許してくれるのです。優しいなあ。これからも役たたずの調理員でみんなに迷惑をかけ続けるだろうけれど、早く役立てるようがんばります。

浜田 桂永子 (はまだ けえこ)

パンジーへ来てはや3カ月。毎日一度は大笑いをする日々を送らせてもらっています。最初、緊張しすぎてオロオロして、笑うどころではなかった私を、こんなに笑いじょうごに変えてしまったパンジーの面々に感謝。

音楽が大好きな私。これからも音楽のように表情豊かにみんなと末永くやっていきたいと思っています。

林 淑美 (はやし よしみ)

戸籍上(私にとってはどうでもいい)では楠ですが、林でどうしています。

私はわたし。加齢と体型以外は全く変わっていないのですが、いろいろなフィルターをとうしてみる人がふえました。「施設長に会いたい」というので出ていくと、「なんやおんなか!」。呆然としてとっさに言い返せなかった自分に腹を立て、心の中で何度もその人を蹴っていました。

干場 洋子 (ほしば ようこ)

名前の読み方は「ほしば」といいます。好きな言葉「念ずれば現ず」。好きな色は、ウニ色のオレンジ色。好きな乗り物、自転車。好きなパン、クロワッサン。好きな音楽、クラシック、バロック。好きなジャズ、モダン、特にクルセダーズ。好きな音楽家、アンドレス・セゴビア。好きな動物、ヒト。好きな植物「気になる木」。好きなスポーツ「水泳」。おしまい。



花咲香より
パンジーへ

planterior花咲香 三家 博子

ここ数年仕事といえは繁雑なことがらを、こなす、片づけるものという感覚に慣れきった私が林さんとのくされ縁からパンジーと関わるようになってからというもの、パンジーに出かけて帰ってくる度に頭の中の混乱は増すばかり……。私の日常の時間とは別の時間がパンジーには流れているようで、ただひたすら効率を求めて走っていた私はとまどうばかりでした。何もかもがパンジーとは遠く離れた所にいた私としては当然の事だったのでしようが。

それでも畑作業、開店準備、オープンハウス等、回を重ねる毎に、パンジーの皆の性格、ようすが少しずつわかるにつれ親しみも増していく中で「ああ、こういう風に動けばいいのか……」という感触がほんの少し解りかけて来ました。

結局、パンジーの中で私一人が園芸の仕事をごなそうと思って動いても駄目なのであって、パンジーの人達との関わりの中で、パンジーの時間の流れの中で動く事が大切……とここ迄書いてきて、いや、それでは駄目！機関車の役目もいなければ、園芸の部門が成り立たない……と揺れ動くことの多い最近です。

これからパンジーがどこへ行こうとしているのか、何を目指しているのか、何をしようとしているのか、もっと聞いてみたい、話してみたい、その中で私がどうパンジーと関われるのかを考えてみたいというのが私の気持ちです。

何事も収束させていくのが好きな反面、思いはあちこち漂っていきます。パンジーと関わった事で又新たな分野、園芸療法について勉強してみたいと思っています。

パンジーのみなさん、いつの日かじっくりとお話がしたいですね。

ピープルファースト カナダ体験旅行記 その1

ぼくはカナダにいったととてもたのしいでした。またカナダに行きたいとおもっています。パンジーのにしおさん、ゆきめさんたちにおしえてあげたいとおもっています。みんなにおみやげをかってあげました。みんなよろこんでくれました。またカナダにいったときに、みんなにおみやげをかってゆきたいとぼくはおもっています。

パンジーからおおさかくこうまでタクシーにのっていきました。それからひこうきにのりかえてアメリカまでいき。それからカナダに行くひこうきにのりかえ。そしてカナダにつきました。みんなありがとう。おつかれさまでした。ピープルファーストのたいかいがありました。とてもたのしいでした。またいきたいとおもいました。みんなでカナダにいきたいときは、ぼくたちにれんらくしてほしいとおもっています。そしたらぼくたちがかいごしやについていきたいとおもっています。みなさんどうもおつかれさまでした。うれしいです。にしおくん、いくたさん、みどりさん、よしのさんどうもおつかれさまでした。(清水)

ぼくはいってうれしかった。

みんなと友だちができてたいへんうれしかったです。やっぱりがいこくのコーヒーとやさいサラダがおいしかった。サンフランシスコのおすしがとてもおいしかった。さんまのていしょくがおいしかった。かていほうもんについて、アメリカのひともねんきん(のようなもの)をもらっているとききました。

インタビューをしてとてもべんきょうをしました。がいこくのひとにミックスクッキーを1まいずつ食べてもらいました。

がいこくのお金がむづかしかった。1ドルは日本円で100円です。がいこくのパーティーに行つてTシャツをかいました。ビールはのまなかつた。コニーさんとあつてたいへんうれしかった。自分のベットより広くかんじました。(生田)

私はみんなとひこうきにのつてカナダにいつてから、かいぎにでたりえいごでお話をしたのでとてもびっくりしました。でも少し日本語をはなせる人がいて、とても安心しました。日本のGHとちがうとゆわれた時は、どゆうふにちがうかわからなかつたけどひろい家にすんでいる人もいるのかなあとおもっていました。カナダつてどうして人が多いのかがわからん。バスにのつたときは日本のバスとくらべて、私はああゆうふうな(くるまいすが5,6台乗る)バスが日本にあつたらべんりがいいだろうなと感じました。かいものをするところがなんともいえないほどの広い店があつたらほしいなあとおもつたけどそうもいかんやろうなあ。がいこくの人もこんどあそびにきてくれたらとてもうれしい。(麻窪)

西尾君に思い出に残ったことを聞きました

- ・ バスの中で八木君といっしょにピザを食べた事。
- ・ ミッキーマウスのTシャツを買ってうれしかった。
- ・ トイレ介護を生田さんにしてもらった。
- ・ カナダと日本のマークの入ったライターを買った。
- ・ 車椅子専用のバスに乗った。(広くて6, 7台乗る)
- ・ 外国のたばこが細くて長かった。
- ・ 飛行機の中の食事がおいしかった。コーヒー、ビール、ワインを飲んだ。
- ・ 4年してまた行きたい。



「みどりさんが外国に行くのは反対です。時差が大きいし、彼女が発作を起こせば生命も危険ですよ。」必死に心配して忠告するDr。

旅行前の緊張のため、1カ月前からパニック状態になった西尾君。眠らないし、食べないし、だんだん痩せてきて、勝手な言動で介護者泣かせの彼。

海外旅行は凶と出るか、吉と出るか。

GHの介護者の三崎さんが同行してくれるのが心強い。

出発前夜に、介護者の西尾玉枝さんの危篤の知らせ。病院にかけつける。西尾さんのやせてつらそうな様子が痛々しく胸が詰まる。けれど目は輝いている。

心が重たい、考えるのは出発してからにしよう。

なぜだろう。みんな、とても調子が良い。

西尾君はよく眠っている。昼まで寝てしまうので入眠剤・安定剤ともストップする。

みどりさんは恐れていた発作がでない。

生田さんはとても元気。いろいろな人と名刺交換してエンジョイしている。

一男君はマイペースで、気に入った物を吟味している。

sacramentでトムさん、コニーさんたちに再会する。自立生活の部屋を訪れるが、アメリカのはなやかな感じと違って、堅実な印象をうける。地道な生活の積み重ねはどこもいっしょと納得する。

いろいろあったけど、今回はみんなの元気な“楽しかった”ということばが何よりのおみやげ。本当にやりたい事をやる時には、少々しんどくても病気も起らないし、疲れも忘れる。当然のことが身にしみました。

そして、「カナダにいっしょに行きたい」と言っていたやさしい西尾さん。あまりにも突然の別れに、ことばがみつかりません。これまでGHを支えて下さってどうもありがとうございました。やすらかにやすみください。(芳野)

学習コーナー



障害者の自立と親の自立(2)

楠 敏雄

全く予期せずに障害児が生まれるという「不幸」にみまわれた家庭では、多くの場合、まず何日かの間は、夫婦そろって絶望のうちに泣きくらし、あるいは「出るのはためいきばかり」で、仕事も手につかぬ日々が続くことでしょう。時には3人そろっての心中を考え、あるいは口にするかもしれません。やがてまず母親がそうした絶望のどん底から立ち上がり、「名高い病院回り」を開始します。「障害が治せる」ときかされるや、葉にもすがる思いで、いろいろな専門家のもとを訪ねさまざまな治療を受け、ときには宗教にもすがることでしょう。しかしこうした母親の努力も、多少の変化はみられたとしても、完全に報いられる事はめったになく、徒労に終わった後は、「かわいい不憫なわが子」を精いっぱいかわいがり、「私が守ってあげなければ」と、懸命に保護するようになるのです。もちろんなかには簡単にあきらめずに「障害の軽減」をめざして涙をのんで「訓練」を続ける親もいるでしょう。しかしいずれにせよ、子供の小さいうちは障害を「普通の事」として受けとめ、わが子と共に差別や偏見に立ち向かい堂々と地域で生きようと決心することは決して容易な事ではありません。

さて、わが子の障害をなかなか認めきれぬ親たちは、その障害児達が成長するにつれて、幾度となくあせりや絶望にさいなまれることになります。すなわち周りの健常児の親たちの無神経な対応や差別的言動にさらされ、あるいは自らわが子を周りの健常児と比較して「どうしてこんな子に」とか「なんとか少しでもましな子に」といった思いに胸を痛める事になるのです。また時には障害児を持つ親同志が互いに子供の障害を比べあって「うちの子の方がまだまし」と言った安心感や優越感によって自らを慰めようとしたり、あるいはその逆に「私の方がもっとしんどい」と自らを卑下する事で何とか立場を守ろうとすることもあります。障害児の親たちがなかなかまとまりにくいと言われる原因の一つが、このあたりにあるのかもしれない。



あなたもガイドヘルパーに

トライしてみませんか?



ガイドヘルパー制度とは?

遊園地に遊びに行く、コンサートに行く、会議に参加するなど、だれもがあたりまえのこととしてしていること。これらの事が障害者にとっては、非常に困難だったりします。それらの困難な部分をサポートする事によって、障害者の外出や、社会活動への参加を保障するための制度です。そして、1993年6月より、東大阪でも、知的障害者のガイドヘルパー制度が発足しました。

知的障害者にとっては何が困難なのだろう?

知的障害者は、「永遠の子供」という言葉に象徴されるように、「何もできない。何もわからない。だから、保護してあげなければならないのだ。」というまわりの親や、教師や、職員の判断によって、その時その時に「ほんとうはしたかった」経験を奪われてきました。そのために、「何がしたいのか」彼ら自身もわからない場合がよくあります。

ガイドヘルパー活動を通して何を感じるのだろう?

障害者にとっては、行きたいところに行く事ができるようになります。そして、そのような経験を数多く積み重ねることによって、自己主張・自己決定が自信を持ってできるようになると思います。ヘルパーにとっては、理念として漠然と理解していた障害者問題が、実際に障害者と関わる事によって、より明確なものになると思います。そして、体験を通して捉えなおす事によって、自らの成長につながっていくのだと思います。ぜひ、ガイドヘルプ活動にトライしてみてください! 詳しくは「パンジー」までお尋ね下さい。

ガイドヘルパー募集

日時: 8月7日(土) 9:30~16:00

場所: 海遊館(天保山ハーバービレッジ)

時給: 1100円 + 交通費全額支給

後援会員を募集します

現在、障害者の自立生活を支える制度は、ゆっくりながらグループホーム制度やガイドヘルパー制度など出来てきています。が、多くの経験や社会活動への参加を望む障害者が安心して利用するには、その中味はまだ不十分です。

パンジーではレクレーション活動、体験宿泊、自立生活への援助など、みんなの社会的経験や生活の幅を広げる「自立生活部門」の充実に取り組んでいます。が、とても残念なことに大事な財政的な援助が現在の制度には、有りません。

そこで皆さまにお願いします。

パンジーの活動の主旨に賛同して下さる方、遠くてパンジーに来るのは難しい方、時間的にゆとりがなく介護は無理だけど資金的援助ならば出来る方、どなたでもけっこうです。パンジーの後援会員になって下さい。

同封の振込用紙に半年分または1年分まとめて送って下さってもありがたいです。

(何口でもけっこうです。)

賛助会員 1口 1ヵ月 500円

本会員 1口 1ヵ月 1,000円

特別会員 1口 1ヵ月 5,000円

郵便振替番号 大阪5-300551

クリエイティブハウス「パンジー」

(振替番号が新しくなりました。！)

御協力ありがとうございました。

敬称を略させていただきます。

小松 崇 泰 桃世 谷川 伸男 ここっと

東大阪療育センター 高井田センター あひる

自治労大東市職員組合

郵便事情で、振り込んでいただいたのに名前のわからない方がいらっしやいます。申し訳ありませんが、パンジーまで御連絡下さい。

編集人 東大阪市東鴻池町2-4-8

クリエイティブハウス TEL:0729-63-8818

“パンジー” FAX:0729-63-8825

発行人 関西障害者定期刊行物協会

大阪市城東区東中浜2-10-1-3

緑橋グリーンソイツ1F・アド企画気付